



# 死生学の未来

□会場 東洋英和女学院大学大学院  
(六本木) 201教室  
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)  
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分)

□問い合わせ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□先着 100名様  
□事前申込み 不要  
□参加費 無料

## 第3回連続講座

6月8日(土)

14:40-16:10(受付14:10~)

### ■プロフィール

2009年筑波大学大学院修了。博士(心理学)。日本学術振興会特別研究員PD、本学人間科学部講師を経て2015年4月より現職。専門は対人社会心理学。

### ■主要業績

共著に『対人関係を読み解く心理学：データ化が照らし出す社会現象』サイエンス社、2019年。「ひきこもり親和群の低位類型：ひきこもりへの移行可能性に注目して」『筑波大学心理学研究』42(2)2011年。「ひきこもりおよびひきこもり親和性を規定する要因の検討」『心理学研究』81(1)2010年。

## 渡部麻美

(わたなべ あさみ) 本学人間科学部准教授

### ひきこもり状態にある人々の実態

#### 内容紹介：

ひきこもりが社会問題として注目されるようになってから約20年が経過しています。ひきこもり状態にある人はどのようなきっかけでひきこもりの生活を始め、どのような生活をしているのでしょうか。ひきこもり状態にある人は「何もしていない人」なのでしょうか。内閣府は、ひきこもりに関する大規模調査を3回にわたって実施しました。そのデータには、多くの人々がイメージするひきこもり像とは異なった実態が現れています。また、ひきこもり状態にある人々の特徴は20年の間でどのように変化したのでしょうか。内閣府の調査結果をもとに考えていきます。

## 第4回連続講座

6月8日(土)

16:20-17:50

### ■プロフィール

北海道大学文学部卒、同大学院文学研究科(哲学専攻)博士後期課程退学(文学修士)。ヨハネ福音書のギリシャ語の分析を出発点に、新約聖書とキリスト教、宗教一般について探究。また、ルーマニア人宗教学者ヨアン・P・クリアーノ( Ioan P. Culianu, 1950-1991)に興味をもち、グノーシス主義やオリゲネスの文献なども研究している。

### ■主要業績

「ヨハネ福音書におけるいくつかの文体的特徴の統合的把握の試み」『新約学』第19号、1991年。『聖と俗の交錯』(共著)北海道大学図書刊行会、1993年。『エリアーテニクリアーノ往復書簡 1972-1986』(共訳)慶應義塾大学出版会、2015年。

## 佐々木啓

(ささき けい)

北海道大学大学院  
文学院教授

いのち

### 「生命」と「看取り」の『聖書』

#### 内容紹介：

キリスト教の聖書は、良いことも悪いことも、人間の為すことならばおよそなんでも書いてあると言って過言ではありません。「生命(いのち)」をめぐる、旧約・新約聖書においては、さまざまな文学スタイルで多くのことが語られています。そのような聖書のなかに数多ある「生命(いのち)」をめぐる記述から、聖書にもとづく宗教であるユダヤ教やキリスト教においてはいったいどのような「生命」観がいだかれているのかを紹介いたします。それとともに、「生命(いのち)」をめぐる今日的な話題の一つでもある「看取り」について、聖書あるいはキリスト教の視点から何を語れるか、ということを考えてみたいと思います。

〈予告〉 7月20日(土)開催 〈公開〉連続講座「死生学の未来」

第5回 平体由美 「「健康」とはどういう状態のことかーアメリカ史に見る「健康」と「病」の変遷ー」

第6回 宮嶋俊一 「死者と共にあるということー北海道における独居高齢者調査を参考に」

